

令和3年6月

勉強会参加のみなさまへ

NPO法人常磐炭田史研究会

会長 野木和夫

勉強会（日程・場所変更）のご案内

この度は勉強会へのご参加ありがとうございました。お陰様で予想を上回る20名となり、昨年度は7名～8名の参加でちょっと寂しい感じでしたので事務局としても大変うれしく思っております。（但し全部参加と部分参加があり、毎回20名ではありません。）

いずれにせよ湯本事務所での20名は三密となる事や7月は勉強会の日が東京オリンピックの特別連休と重なったり、何よりもオリンピックでコロナがどうなるのか分からない事等々を考えると7月開始に固執しない方が良くと思い事務局で検討の結果、以下の通りとします。

■時期 開始を2カ月遅らせ9月とする（次頁日程表参照）。

■場所 いわき市石炭・化石館コミュニティ・ホール

9月になれば高齢者～現役世代のワクチン接種も進行し、常磐炭田地区のコロナ禍の様子も分かると思います。出来るだけリスクは避けて、安全・安心の勉強会にしようと思っておりますのでご理解・ご協力の程どうぞよろしく申し上げます。

みなさまも勉強会時はマスク着用、アルコール消毒等よろしくお願ひいたします。感染予防のため飲み物は出しませんので各自ご用意ください。

ヤマのあるマチの季節は巡り、緑は日々その濃さを増し、大閉山の50年前と同じく今年も万物が光り輝くあの盛夏がやってまいります。みなさまにはコロナ禍の中、くれぐれもご自愛ください。

以上

勉強会のお問い合わせは 会長 野木和夫 090-7322-9818

事務局長 馬目太一 090-8502-4278

変更後勉強会日程（下線が7月から変更）

勉強会の時間は全回とも13時～15時までの2時間です。

司会進行 野木和夫

① 9月4日（土）「OBが語る常磐炭田の閉山事情」 講師 会員 野木和夫

講師は常磐炭礦(株)に入社時、実習で2か月坑内作業も経験。常磐炭礦(株)OBとの交流も多く、閉山経験者から直接話を聞いたり、資料を調査したりして今回のテーマとしました。常磐炭田全般の閉山事情にも触れるいわば「閉山とは・・・の入門編」です。

② 9月11日（土）「大閉山といわき地域の対応」 講師 会員 小宅幸一

講師はいわき市役所OB。豊富な知識や写真を駆使してテーマに迫る手法は他の追随を許しません。この大閉山問題にいわき市など関係機関はどう対策をとったのか、それがどう復興に結びついたのか、この大きいテーマで持ち時間の2時間で終われるのか、その点だけが心配です。

③ 9月25日（土）「閉山と湯本二小の子供たち」講師 会員 吉田静江+ゲスト

講師は大閉山の年、湯本二小の教師をしており、閉山で故郷を離れる親と一緒に新天地に行く多くの子供たちの転校を見守ってきました。炭鉱のど真ん中にある湯本二小は閉山の時どんな様子だったのか、吉田先生とお招きしたゲストに思い出話をさせていただきます。

④ 11月20日（土）「今だから話せる閉山闘争」 講師 OB 安斎哲男

安斎哲男氏は常磐炭礦労働組合の役員として労働者の権利と生活を守る活動を続けてまいりました。そして50年前のあの閉山反対闘争を実際戦った、今では数少ない証言者の一人です。組合から見た閉山とはどんなものだったのか・・・話していただきます。

⑤ 1月22日（土）「脱炭素社会と石炭産業のこれから」講師 会員 渡邊英樹

明治以降の日本近代化や戦後経済復興に尽くした石炭ですが、最近は何かと風当たりが強くなっております。講師は常磐興産(株)で長年石炭営業を担当、現在は常磐港運(株)の社長として活躍中。石炭産業の今とこれからの分かりやすく解説していただきます。

⑥ 3月19日（土）「旧青葉の住人よりの書簡」 講師 会員 菅波 晋

常磐青葉地区は常磐炭礦(株)の炭住があり、「旧青葉の住人」と称する匿名の方から講師宛てに30通を越す書簡が届き、内容を見ると戦前戦後の炭鉱の話や珍しい写真もあり、炭鉱と湯本町の関連を含め、勉強になるので今回とり上げました。

※9月4日（火）勉強会終了後、ご希望があれば1時間位ほるる周辺の閉山闘争関連場所をご案内いたします。事前の申し込みは不要です。天気が悪いときは次回に延期。

「追伸」 申込書のアンケートには以下の意見がありましたので紹介します。

1. あと4年で昭和100年です。昭和100年を石炭産業の栄枯盛衰で振り返ってみたいと考えております。
2. 浅野総一郎について（渋沢栄一との関りを含めて）
3. 女性がどのように炭鉱とかかわっていたのかも知りたいです。
4. 勿来の常磐共同火力発電所が以前より大規模化したので、機会があれば巡検に参加したいと思います。

※巡検に関する事務局案

勉強会が終わる来年の3月下旬頃、コロナが落ち着いていれば、参加者で <ほるる～常磐共同火力(株)勿来発電所～マリンブリッジ・小名浜港石炭埠頭～東電原発廃炉地区(太陽光、水素)～J・ビレッジ～ほるる>のコースでエネルギーの変遷を考える巡検を検討してみたいと思います。中型観光バスが使えるのならバス代は参加者負担で如何でしょうか。ご意見をお寄せください。

<知るは力なり>

令和4年も勉強会はありますので、「浅野総一郎」や「炭鉱と女性」、「昭和100年と炭鉱の時代」等をテーマに会員同士で勉強したいと思います。
